

万博 マンダラプロジェクト 「高野紙」紙漉きについて



●2024年7月4日（木）西細川集会所で万博 マンダラプロジェクト用の「高野紙」制作について西細川地域住民や担当役場職員などへ、漉き手の飯野より高野紙の説明を行う。西細川活性化実行委員会会長と西細川町内会長からの賛同を得て、「黒皮サクリ」の作業を西細川地域で全面協力していただけることになる

●2024年7月5日（金）高野山会議で万博 マンダラプロジェクトが紹介される



（参考：九度山町 高野紙「古沢紙の紙漉き」故 中坊君子氏・故 佳代子氏 S60）↑

●その後、西細川地域を整備し活性化する活動を行っている会である西細川 APC（西細川活性化実行委員会といい、地元住民の有志による）が中心となって、高野紙の紙漉きまでの工程のうち、「黒皮サクリ」の作業が行われ、高野紙を漉くこととなる

① 黒皮サクリ作業・・・（旧西細川小学校の教室で）



4日作業（2024年7月～9月）・延べ人数 **67人**

西細川活性化実行委員会メンバーとその家族や住民

田子多夫妻・入谷・坂口・山崎・西口・中村夫妻・飯野親子・庵上夫妻・津田・藤田

高野町役場職員（地域担当職員や家族）

南木・井上・尾家・森脇親子・中西・稲葉・日吉田・民農・梶山・嶋本・浦部・保田

（岡北（事務関係の協力））



② 高野紙 紙漉き・・・ 340枚 プラス中坊佳代子氏の高野紙300枚 飯野



楮煮熟



叩解



高野紙「細川」紙漉き

③ 紙切継ぎ・・・大西龍志堂（表具）による紙切継ぎ 折り紙になる

大西親子



→①～③以降は、益子氏による折紙、ねぶた技術や蓮の開閉技術に各精鋭が仕上げていく